

持続可能な長寿社会に資する学術コミュニティの構築委員会
ジェロントロジー教育分科会（第3回）
議事要旨

日 時：平成 22 年 10 月 25 日（月）13：00～15：00

場 所：日本学術会議 5-C(2)会議室（5 階）

出席者：（敬称略）

柴田 博、直井道子、秋山弘子、内田伸子、金川克子、中野いく子、芳賀 博（記録）

欠席者：岸 玲子、小西美智子、堀 薫夫

事務局：石原参事官、中島調査員、原主査、菅野

- 議 題：
1. 前回議事要旨（案）の確認
 2. 高齢者・長寿社会に関する教育の体制・内容の把握とあり方について
 - ① 学部・大学院教育について
 - ② 看護・医療関連領域教育について
 3. その他

資 料：

資料 1 前回議事要旨（案）

資料 2 学部・大学院におけるジェロントロジー教育（芳賀委員）

追加資料 老年学(ジェロントロジー)の領域に関連した医療関連領域の教育について（金川委員）
（資料回覧）「日本における老年学教育講座開設のための予備調査研究報告書、国際長寿社会日本リーダーシップセンター、1995 年」（柴田委員長）
「地域社会における高齢者に関する福祉教育の現状についての調査研究報告書、国際長寿社会日本リーダーシップセンター、1997 年」（柴田委員長）

議 事：

1. 前回議事要旨（案）の確認

資料 1 にもとづいて議事要旨の確認が行われた。看護・医療関連領域教育の担当委員として岸委員の承諾が得られた旨 柴田委員長から報告があった。

2. 高齢者・長寿社会に関する教育の体制・内容の把握とあり方について

① 学部・大学院教育について

資料 2 に基づき芳賀委員から以下のような説明がなされた。

- ・米国における学際的なジェロントロジー教育プログラム（2009 年現在）は、学部、大学院レベルにおいてこの 10 年間に大幅に増加している
- ・ヨーロッパ各国におけるジェロントロジー教育（2000 年現在）は、イギリス、ドイツ、フランス等を中心として 11 カ国において大学院修士レベルの教育プログラムが展開されている。また、欧州各国共同による「ジェロントロジー教育プログラム（EuMag）」も 2003 年から開始されている
- ・日本における学際的ジェロントロジープログラムは未だ普及しておらず、東京大学高齢社会総合研究機構による学部横断型教育プログラム（2008 年度～）と桜美林大学大学院老年学研究科（2002 年度～）によるものが主なものである。

なお、東京大学における学部横断型教育プログラム（学部生対象）について秋山委員からプログラムの特徴や近年 工学、法学等の学生を中心に履修者が増えていることなどについて追加発言があった。また、我が国における老年学大学院プログラム修了者の就職先は確保されていないこと、学際的プログラムの将来像として連合大学院構想なども視野にいて検討すべきであること等について意見が交わされた。

② 看護・医療関連領域教育について

追加資料「老年学(ジェロントロジー)の領域に関連した医療関連領域の教育について」に基づいて金川委員より以下のような説明がなされた。

- ・ 現行の看護職教育の中での老年学関連科目としては、看護基礎教育課程（養成所、学部レベル）及び大学院教育課程のなかに老年看護学、在宅看護学、地域看護学等が位置づけられている。また、認定看護師教育課程や専門看護師養成課程においても老年者ケアとかかわりの深い専門領域に特化したコースが設けられている。
- ・ 老年学の考え方を看護教育の理念にどのように位置づけるか（老年学の新設、学際的な必要科目の設置など）、活動のレベルをどこに置くか（プライマリーレベル、セカンダリーレベル、高次レベル）、老年学を活用・駆使できる場（出口）をどのように考えるか（保健行政、包括支援センター、訪問看護ステーションなど）について、いくつかの方向性が提示された
- ・ ジェロントロジー理念の看護教育への導入の方策としてジェロントロジーを中心とした大学院教育との連合・融合も考えられる

以上のような提示の後に、医学部の老年医学講座は近年 減少傾向にあるが、プライマリー、セカンダリーのどの立場に視点を置くべきかについては、プライマリーケアに焦点化すべきではないか、看護学領域においてもプライマリーヘルスケアの専門家としてのナースプラクティショナー（NP）養成の議論もあり老年医学医療[教育]が向かうべき方向性は同様であるなどの発言があった。

3. その他

今回の委員会では、当該教育分科会からの報告書作成（案）について議論することになった。

第4回ジェロントロジー教育分科会の開催予定 11月29日(月) 10:00～12:00